

音楽科教育法における模擬授業の在り方
協働的授業づくりを通して
日高まり子

【要約】

小学校教員養成課程においては、小学校各教科の指導力の育成を図っているが、授業力向上においてシラバスに位置付けられている模擬授業の演習は重要な指導内容である。学生が模擬授業を構成、計画、実践することで授業の具体的なイメージを持ち実践的な授業力を育成することができる。また、その授業の体験によって教科の指導に必要な基礎的・基本的な理解を深めることの大切さに気づくことができる。そこでは、個別の模擬授業を計画する以前に授業づくりの方法を実践的に学ぶ必要がある。音楽科教育法の指導では、協働的な取組での模擬授業を実施し、仲間と討議し、検討し合いながら学び合う授業づくりに取り組んだ。音楽科教育法の取組から模擬授業の在り方についてまとめる。

【キーワード】 小学校教員養成課程、授業づくり、模擬授業、音楽科教育法、協働的取組、授業力

1、はじめに

音楽科教育法においては、小学校教員育成を目指し、教科指導としての音楽の実践的指導力を高め、子どもの成長に即した適切な指導をすることのできる学生を目指している。そこでは、小学校学習指導要領の理解、音楽の専門的知識・技能を用いて教育現場で用いることのできる能力を培うことが必要である。そのためにシラバスにおいて、具体的な授業場면을想定した授業設計を行う方法を身につけるために、模擬授業での演習を取り入れている。その模擬授業の実践を通して、その取組と有用性、課題を整理し、より効果的な模擬授業の在り方を模索したいと考える。

2、模擬授業の取組

模擬授業は、教員養成における実践的な指導力を育成するために有効なシラバスの内容であり、音楽科指導法のみならず、他教科においても積極的に展開されている指導である。文部科学省中央教育審議会（以下、中教審と記す）の答申^{*1}の中には、採用当初から、教科指導、生徒指導等の職務を著しい支障が生じることなく実践できる資質能力としての教職生活全体を通じて育成されるべき「実践的指導力の基礎」を教員養成において身につけさせなければならないことが提言されている。

この答申の中では、これからの教員に求められる資質能力の3点が以下のように示され、実践的授業力を指摘している。

- (1) 教職に対する責任感、探求力、教職生活全体を通して自主的に学び続ける力（使命感や責任感、教育的愛情）
- (2) 専門職としての高度な知識・技能・教科や教職に対する高度な専門的知識（グローバル化、情報化、特別支援教育その他の新たな課題に対応できる知識・技能を含む）・新たな学びを展

開できる実践的指導力（基礎的・基本的な知識・技能の習得に加えて思考力・判断力・表現力等を育成するため、知識・技能を活用する学習活動や課題探求型の学習、協働的な学びなどをデザインできる指導力）・教科指導、生徒指導、学級経営等を的確に実践できる力

- (3) 総合的な人間力（豊かな人間性や社会性、コミュニケーション力、同僚とチームで対応する力、地域や社会の多様な組織等と連携・協働できる力）

また、初任者の課題として「初任者が実践的指導力やコミュニケーション力、チームで対応する力など教員としての基礎的な力を十分に身に付けていない」ことなどが指摘され、教員養成段階において、教科指導、生徒指導、学級経営等の職務を的確に実践できる力を育成することなどの確な教員養成課程での指導の充実が求められている。

平成 29 年度告示小学校学習指導要領^{*2}の改訂においては、中教審の議論、提言をふまえて育成を目指す資質・能力の明確化、主体的・対話的で深い学びの実現にむけた授業改善の推進、各学校におけるカリキュラムマネジメントの推進などが基本方針として進められている。アクティブ・ラーニングの視点での「主体的・対話的で深い学び」においては、「生涯にわたって能動的に学び続けることができるような「主体的・対話的深い学び」の実現、子どもたちが「何ができるようになるか」を明確にしながらか、「何を学ぶか」という学習内容と「どのように学ぶか」という学びの過程を重視されていることをふまえ、教員養成においてもその体験的な学びとなる模擬授業をシラバスに位置づけ実践することの重要性は高いと考える。

文部科学省「教育課程コアカリキュラムのあり方に関する検討会（平成 29 年 11 月 17 日）」の「教育課程コアカリキュラム」^{*3}に示された教科及び教科の指導法に関する科目・各教科の指導法の(2)当該教科の指導方法と授業設計においても以下のように指針が示され、模擬授業についても明記されている。

一般目標：基礎的な学習指導理論を理解し、具体的な授業場面を行う方法を身につける。

到達目標：1)子どもの認識・思考、学力等の実態を視野に入れた授業設計の重要性を理解している。

2)当該教科の特性に応じた情報機器及び教材の効果的な活用法を理解し、授業設計に活用することができる。

3)学習指導案の構成を理解し、具体的な授業を想定した授業設計と学習指導案を作成することができる。

4)模擬授業の実施とその振り返りを通して、授業改善の視点を身につけている。

5)当該教科における実践研究の動向を知り、授業設計の向上に取り組むことができる。

模擬授業は、実践的指導力育成のための指導において、教科の専門的知識の理解、技能の習得はもちろんのこと、その基本的・基礎的な知識理解を授業に実践的に活用させる指導である。指導の技能を習得するとともに、適切に対応できる支援の場面やその方法を身につけることができる実践的取組である。模擬授業の実践と学生相互の協議・考察を通し、実際の授業運営のポイントについて理解を深めてゆくものである。

小学校の教科の中で「音楽科」は知識や論理的思考能力に加え、感性を磨き、共感する能力、音楽的表現力を養うことを目的する実技系教科としての特質をもつ。平成 29 年度告示小学校学習指

音楽科教育法における模擬授業の在り方 協働的授業づくりを通して

導要領音楽編^{※4}の「音楽科の改訂の趣旨及び要点」の中に音楽科の改訂の基本的考え方のひとつに「音楽に対する感性を働かせ、他者と協働しながら、音楽表現を生み出したり音楽を聴いてそのよさなどを見いだしたりすることができるよう、内容の改善を図る。」とされている。更に「指導計画の作成と内容の取扱い」においては、「題材など内容や時間のまとまりを見通して、その中で育む資質・能力の育成に向けて、児童の主体的・対話的で深い学びの実現を図るようにすること。その際、音楽的な見方や・考え方を働かせ、他者と協働しながら、音楽表現を生み出したり音楽を聴いてそのよさなどを見いだしたりするなど、思考、判断し、表現する一連の過程を大切に学習の充実を図ること。」が示されている。「主体的な学び」、「対話的な学び」、「深い学び」の視点から児童の主体的・対話的で深い学びを目指した授業改善を図ることが求められている。音楽科教育法では、資質の高い教員養成の目的を達成するために音楽科の特徴と意義・目的を理解し、様々な歌唱・器楽・鑑賞教材等を学習する。その中で、自らが音楽を楽しむ感性を感じ取り、音楽的な基礎的・基本的な事項の理解を深め、学習指導案の作成及び模擬授業の実践を通してよりよい授業力を身につけることを目標とするものである。模擬授業づくりを体験することは、「主体的な学び」、「対話的な学び」、「深い学び」を学生自らが体験し、指導者として授業を作るための学びとして熟慮させる重要な機会となっている。加えて、協働的活動により、自己理解と他者理解に加え、社会的スキルの獲得と「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性等」の育成がなされるものであると考える。

3、模擬授業づくりのための事前指導

模擬授業の実施においては、小学校の音楽指導における音楽理論や演奏の基本的、基礎的事項、学習指導要領・音楽科の目標を受け、歌唱・器楽・音楽づくり・鑑賞・共通事項を理解、観点別評価の基本的な内容の理する講義、教材研究の在り方などを習得する講義等、シラバスの指導内容をふまえ、授業づくりの基礎を学んだ。模擬授業づくりの前段階として1年生から6年生の各学年の共通教材を題材とした器楽表現活動の部分模擬授業をグループで取り組ませ、協働的学習としての模擬授業づくりの予備体験をさせた。また、模擬授業の実際では、共通教材を主な題材として取り扱う2つの授業づくりグループを編成し、それぞれで授業の在り方を検討しながら授業を企画構成し、教材作成、準備などを経て、実際の授業を展開した。

(具体的な授業づくりの基礎的な学習内容)

- ① 小学校における音楽科の役割についての理解
- ② 音楽的な発達についての理解
- ③ 新学習指導要領と現行の学習指導要領の比較対比
- ④ 小学校音楽の指導目標の理解
- ⑤ 小学校音楽科の指導内容の理解（歌唱、器楽、音楽づくり、鑑賞、共通事項）
- ⑥ 基本的な観点別評価についての理解
- ⑦ 共通教材についての理解
- ⑧ 演奏法の理解と習得（歌唱、器楽）
- ⑨ 音楽理論の理解
- ⑩ 1年生から6年生の各学年グループでの共通教材の指導のプレゼンテーション・模擬授業作り

の基本（学習指導案作成、授業設計図の作り方）

1年生「かたつむり」、2年生「虫の声」、3年生「春の小川」、4年生「まきばの朝」、5年生「冬げしき」、6年生「ふるさと」

- ⑪ 教材研究のための資料の読み取りの理解
- ⑫ 模擬授業「うみ」「ふるさと」の企画構想、授業計画、授業準備（教材作成、学習活動の計画）
- ⑬ 模擬授業「うみ」の実際、授業反省
- ⑭ 模擬授業の実際「ふるさと」、授業反省

（授業準備のための参考資料）

※平成29年度改訂小学校教育課程実践講座 音楽（編著；宮下俊哉 発行；ぎょうせい）※⁵

※小学校教員養成課程用最新初等科音楽教育法（初等科音楽教育研究会編 音楽友の社）※⁶

※小学音楽おんがくのおくりもの 教師用指導書研究編 教育出版※⁷

4、 模擬授業の実際

- 対象授業；音楽科教育法Ⅰ（本学教育学部2年生小幼コース29名）
- 模擬授業の方法
 - ・1年生・共通教材「うみ」、6年生・共通教材「ふるさと」を選曲し、2グループを編成。
 - ・グループは、自主選択。
- 授業企画
 - ・各グループで協議し、グループリーダー、サブリーダー、授業者を決める。
 - ・授業計画を協議し、準備計画を立てる。
- 授業準備
 - ・講義外の時間を活用して、各グループで教材準備をする。
 - ・講義1時間をグループ協議、授業準備として活用する。
- 研究授業
 - ・授業者による模擬授業を行う。
 - ・グループの他の学生は、児童役とする。
 - ・他のグループは、授業を参観し、メモを取る。
- 授業評価
 - ・授業内容（進め方、話し方や発問・板書等の指導技術）、教材研究の視点で個別の意見を付箋紙に記入し、KJ法を使って整理する。
- 授業振り返り
 - ・授業担当グループは、分類された意見を元に授業を振り返り、グループとしての授業の振り返りをまとめる。
- 課題検討
 - ・まとめられた意見を元に、協議し、課題を整理する。
- まとめ
 - ・整理された課題もとに、模擬授業のまとめをし、レポートを提出する。

音楽科教育法における模擬授業の在り方
協働的授業づくりを通して

(1) 模擬授業づくり

各グループに分かれて、協働的に模擬授業づくりに取り組んだ。楽曲の分析・理解、教材の研究から始まり、授業内容の検討、授業展開・学習過程の検討、教材・教具の検討・作成、授業準備などの取組が行われた。グループごとに講義時間外での協働的な活動も積極的に行われていた。学生によっては参加の積極性にやや相違は見られたが、授業者のみが授業準備をするのではなく、全体としてはグループとして協働的に取組、模擬授業作り上げることができていた。

学習指導案の作成については、学習活動を中心に略案としての書式を示し、実践的な指導案の概要で模擬授業に取り組ませた。学習指導案については、音楽科指導法Ⅱにおける指導につなげていくことにしているため、この講義における模擬授業では専門的な指導には至っていない。学生には、以下の資料を示して、グループで協議し、授業を計画した。

授業評価については、評価基準についての概要と事例を示した。実践的な内容の理解のためには、児童の実態理解を含め別途講義において学修することが必要となっている。ここでは、指導内容について KJ 法を使った授業評価をしていくことを伝えている。

【配布資料】

学習指導案；授業の設計図の作り方

※参考図書

【平成 29 年度改訂 小学校教育課程実践講座 音楽 (編著；宮下俊哉 発行；ぎょうせい)】

①参考図書資料から、以下の内容を読み取る。

- 設定学年；
- 題材；
- 使用教材曲；
- 題材の目標；
- 評価基準
- 指導計画（ 時間）

時間	学習活動	指導上の留意点・評価基準

- 解説；指導観

②グループを決定し、読み取った内容を参考に 1 時間の学習指導案を作成する。

- 設定学年 1 年生・6 年生
- 題材；1 年生「ようすをおもいうかべて」
6 年生「音楽に思いを込めて」
- 主教材曲；1 年生「うみ」
6 年生「ふるさと」

- 題材の目標；
- 評価規準；資料を参考にする。
- 指導計画（第1時間目の設定とする。）

②学習指導案を使って模擬授業をする。

- 学習指導案を配布する。
- 事前研究をする。（学習指導案もとに教材曲や授業内容、授業展開等について説明する。）
- 代表の授業者を決める。
- 模擬授業をする。
- 事後研究をする。（模擬授業を振り返る。課題について協議し、授業の工夫改善をする。）

設定学年			
題材名			
目標			
教材曲名			
指導計画	時	学習活動	指導上の留意点・評価基準
評価 ※新学習指導要領では基準を変更していく。	音楽への関心意欲態度	音楽表現の創意工夫	音楽表現の技能
	※現行の学習指導要領を基にした評価基準		

(2) 授業後の授業評価及び振り返り

KJ法によって学生が模擬授業の評価をカテゴリーにまとめたものを以下の表に示す。

1年生共通教材「うみ」の模擬授業では、プラスの面では、授業：①児童に考えさせる工夫、②歌詞理解の工夫、③歌唱指導の工夫、④教師の態度面、⑤授業内容の広がり、教材：⑥絵カードの表示の工夫、⑦楽器活用の工夫、マイナスの面では、授業：⑧授業の進め方の工夫、⑨児童への声かけの工夫、⑩教材の工夫の仕方がカテゴリーとしてまとめられた。6年生共通教材「ふるさと」の模擬授業においては、プラスの面では、授業：①授業に進め方、②児童の考えを引き出す工夫、③教師の態度、教材：④歌詞表の工夫、⑤視聴覚教材の活用の工夫、マイ

音楽科教育法における模擬授業の在り方

協働的授業づくりを通して

ナス面では、授業：⑥授業の進め方の工夫、⑦児童への指示・声かけの工夫、教材：⑧教材の工夫の仕方がカテゴリーとしてまとめられた。

まとめられたカテゴリーをもとに、各授業グループによって、それぞれ授業反省が行われた。その協議においては、授業を作り上げる過程においての協働的な活動によって生み出された授業計画が、実際の授業展開においては様々な課題があることに気づくことができていた。教材研究においても、どのような教材が適切であるのか、その教材をどのように提示するのか、その教材は活用性があるのか、児童にとって理解しやすい教材となっているかなど、研究を深めなければならないことの多さも感じられていた。授業展開においては、代表者による授業となり、他のグループ内の学生は学習活動の流れを客観的に参観することで、グループで行った授業づくりを振り返りながら、授業計画の重要性にも気づくことができていた。音楽科においては、知識理解に加え、習得の必要性の高い歌唱やピアノ伴奏、視聴覚機器の操作など技能的な面の指導力も課題となっていた。授業者は、積極的に模擬授業への取組を志望しており、意欲的に授業に取り組む姿もうかがえた。授業後には、グループで授業づくりをすることの難しさや教材作成や授業の進め方、発問の仕方、授業の雰囲気づくりなど授業への不安が大きかったことなどもまとめていたが、自分なりに一生懸命取り組んだことへの達成感を感じることもできていたようだ。

	「うみ」	「ふるさと」
授 業 プ ラ ス 面	<p>【①児童に考えさせる工夫】</p> <p>海を想像させるようとする。 海のイメージの方法や歌い方の指導の仕方がうまかった。 曲のイメージがしやすいように工夫されていた。 導入の海の想像をさせる時に目をつぶって想像させたからよかった。 導入で「何の音にきこえた？」と楽器をつかっていたのは良かった。 楽器を使ってイメージをさせる時に目をつぶらせたのがよかった。 最後の方にもう一度めあてを確認してから歌っていた。 海のイラストを児童に張らせる活動を取り入れることで、印象に残りやすく、イメージをつかませやすいと思った。</p> <p>【②歌詞理解の工夫】</p> <p>「教科書をもって下さい」という声掛けを歌詞を読むときにした。 1番から3番まで意味をしっかりと考えていた、歌詞の朗読をさせたのは良かった。 1番、2番、3番とそれぞれ歌詞を確認して歌うというのを繰り返しやっていて、歌う機会がたくさんあった。 見知らぬ楽器の活用は子どもたちに興味をもたせるので良かった。 楽器や教材を多く使って良かった。 自分で「海」を弾いていたのも良かった。 沢山意見の言える機会があった。 前に出れるよう自主性を促す。 子どもの意見をたくさんひろっていた。 児童側の視点に立って発表を聞いてあげていた。共感す</p>	<p>【①授業の進め方】</p> <p>導入で映像を見せてイメージを膨らませたのはいいと思った。 動画は映像に目が向かってしまったから、次にCDだけを聞かせて歌詞とメロディに意識を向かせていたのは良かったと思う。 導入で1年間の自分たちの姿を振り返っていてとても惹きつけられた。 テンポがよくてスムーズな流れで進んだ授業をしていてよかった。 授業の流れ、進め方が効率よくてよかった。 何回も歌う場面があつて良かった。 悲しくなる曲だけど所々笑いを入れて明るく授業ができた。 強弱記号の確認をしながら授業を進められていた。 子どもたちが歌っている時に机間指導をしたり、回ったりしてよかった。 曲をリピートすることで授業に入り込みやすかった。 生徒の意見に対する反応など生徒との距離感が良かった。 自分の思いを考えることができるように発問して良かった。 どう歌えば思いを表現できているかの指導が工夫されていて良かった。 模造紙に書き込みながら表現の復習は良かった。 mf、p、クレッシェンド、デクレッシェンドを意識させたことが良かった。 発声練習がありよかった。 黒板をうまく使っていた。 「ふるさと」がランキング1位だという点に最後までついていき、1つの豆知識を与えたところが親しみやすい教材</p>

	<p>る場面が多くあってよかった。 うみのイメージをしやすい順序だったと思う。(楽器→絵→音楽) 海をイメージさせるとき楽器→絵→音楽と具体的にできていた。</p> <p>【③歌唱指導の工夫】 歌う時にピアノ伴奏を入れたことが良かった。 歌い始めるタイミングを「さんはい」と言って子どもたちに伝えていた。 歌を歌わせるときに先生が「さんはい」と指示していたので出だしに戸惑うことなく児童たちも歌うことができていいなと思った。出だしのタイミングが分かりやすかった。 ピアノの伴奏を取り入れた事は気持ち良く歌えて良かった。弾き歌いは効果的で印象が強いと感じた。</p> <p>【④教師の態度面】 言葉を一音一音はっきりと話し、声の大きさや声のトーンも丁度良く聞きやすくてはっきり伝わりやすかった。 子どもたちに授業内容が伝わりやすかった。 先生の声が大きかったので自分が発表する時に大きな声で発表できた。発表を受け取ってくれた。 児童たちを「お友だち」と呼ぶのがよかった。 教師が明るかったので児童も楽しくできそうだった。 楽しい雰囲気づくりができていた。 堂々として動きが良かった。 テンポ良く進んでいたと思う。 教科書の歌詞を読ませる時、歌わせる時に、ちゃんと児童が教科書をもっているかをしっかり確認できてよかった。</p> <p>【⑤授業内容の拡がり】 授業後に今日使った提示物を教室の後ろに提示することによって、音楽の授業外でも児童たちが楽しんで活動できるので良いなと思った。 授業の内容がよかった。 次回の授業のつながりを行っていた。</p>	<p>へとつながった。</p> <p>【②児童の考えを引き出す工夫】 どう歌えばいいのかを考えたりして、進め方が上手だと思った。 目を閉じて先生が訳していたのは子どもたちにも分かりやすくてよいと思う。 先生が「ふるさと」の歌詞の意味を分かりやすく説明することで歌詞がすぐに頭の中に入ってきた。 目的をもって歌わせることができた。 意味を言ってくれて分かりやすかった。 スライドが導入に入っていて思い入れやすかった。 ハキハキと言っていて意見も受け入れてよかった。 子どもの意見を常に気にしてひろっていた。 CDを流している間に歌詞を貼っていて流れがスムーズだった。 上手くCDを使って歌い方の例を示し、心をこめて歌う雰囲気を感じさせ表現の工夫をさせることができていた。 歌詞表が前に貼ってあって聴きながら確認できていた。 見やすい。</p> <p>【③教師の態度】 声の大きさがはっきりしていて伝わりやすかった。 自分の思いと作者の思いの2つを大切に歌わせようとする声掛けが良かった。 伴奏ができなくても発声練習の時だけでもピアノを弾くという姿勢が見られてよかった。 機器トラブルも乗り越え授業を完走できたことがすばらしい。 質問が理解できていない児童への対応ができていた。 発表者の発表の際には、書く手を止めて、しっかり目を見て聞いていた。 先生の声の大きさがよかった。 声の大きさが良く、ハキハキしていて聞きやすかった。 先生の声が大きく、表情が豊かな事はとても大切だと思った。 歌の感想で注意すべき点を言っていたところがその後につながると感じた。 オウム返しなど、子どもの意見を拾うということができていた。 生徒の意見に対してうなずいてあげたり聞き返したりして他の生徒にも分かるようにしていたよかった。 問いかけも多く考えさせる場面があった。 児童から出た意見を再構成して板書したところが良かった。 発声でピアノを使ったりして、ピアノにチャレンジしていた。</p>
<p>教 材 プ ラ ス 面</p>	<p>【⑥絵カードの表示の工夫】 模造紙や写真で海の青い感じがイメージできて良かった。 海の絵は子どもの興味を引けたと思う。 海に絵を使って波、月、日、船を貼ったのが分かりやすかった。 海の絵がうまくかけていてかわいいと思った。 月、太陽、船、波の具体物がありイメージしやすかった。 海の絵を使用してパネルシアターのようなものを作っていた事はイメージしやすくて良かった。海を感じたり絵で海を使ったりして、海のイメージがしやすかった。 画用紙を使って歌詞と結びつけられるようになってい</p>	<p>【④歌詞表の工夫】 大きな紙を用意して歌詞を書いていた。歌詞表の文字も大きくて見やすかった。 歌詞表を黒板に貼ってそれにどんどん書き込んでいくという方式は良いと思った。</p> <p>【⑤視聴覚機材の活用の工夫】 スライドショーを導入に使うことで何が流れるかわからないワクワク感と興味が出てよかった。動画を使って注意をひきつけ効果的だった。子どもたちが授業に入りやすくなっていた。 DVDがあることで「ふるさと」の情景をイメージしやすかった。 動画からの導入が自分の実生活とつながりが見えて授</p>

音楽科教育法における模擬授業の在り方

協働的授業づくりを通して

	<p>た。 展示物が素晴らしい。 歌詞表と絵カードを組み合わせたのが良かった。 歌詞表が前に貼ってあり、下を向かず歌うことができた。</p> <p>【⑦ 楽器の活用の工夫】 導入の楽器で音をしっかりと聴く経験ができた。 ピアノ以外の楽器を用いた。 楽器を用いて海をイメージさせる。 イメージさせるために楽器や絵など様々な工夫がされていた。最初に使った楽器や絵も基本的には分かりやすいと思った。楽器の音を使ってうみをイメージさせるのがよかった。楽器を使って海の想像を膨らませていた。 実際にピアノを弾いて、ピアノの伴奏を聴きながら歌わせていた。 楽器を使って海を想像させたのは良かった。 具体的な音を楽器で感じられたことで、海に対するイメージがより身近なものに感じられた。 太陽や月のような提示物があるより分かりやすい。</p>	<p>業内容に入りやすかった。模造紙を使った歌詞表を前に貼ったことで自然と前を向く環境にし、活動をしやすい工夫がされていた。 1年間を振り返った映像で興味がひかれる。 グループワークがしやすかった。 準備物が多かったが必要なものはしっかり揃えられていた。 教材の使い分けがされていた。</p>
<p>授 業 マ イ ナ ス 面</p>	<p>【⑧ 授業の進め方の工夫】 導入展開のメリハリを付けたほうが良いと思った。 曲を聴いてからパネルに絵カードを貼らせたほうが良かった。 海の模造紙に貼らせたときに何で貼ったのかを後で知らされたため、理解が遅れた。 なぜこの場所に児童が絵を貼ったのかをすぐに問いかけるともっと良くなるだろう。 立ったり座ったりが多く、集中力が欠けると感じた。説明を聞いたりや演奏したりする場面のメリハリを付けるためには必要であるが、煩雑な活動にならないよう授業の流れの工夫が必要だと感じた。 最後の歌唱はまとめも意味もあるので立った姿勢で歌ったほうが良いと感じた。 イメージを膨らませるための時間の使い方の工夫が必要であると感じた。 「うみ」の旋律をあまり練習しなかったのも、児童によってはよく旋律が理解できていなかったのではないかと感じた。歌いづらいと感じた児童もいたと思う。 歌詞の意味が分からないままのような気がした。 最後にもう一回歌わなくていいように、まとめでの歌唱活動をちゃんとさせるほうが良いと思った。 児童に楽器の音を聞かせる場面で、もう少し時間をかけて「何の音だろう？」と考えさせても良かった。 CDでの旋律鑑賞を先に入れておくともスラスラ授業が進んで待たせる時間も少なくなると思った。 板書を効果的に使えるよう計画的にするほうが良い。 ピアノのテンポが少し速かった。 曲を聞かせる時は、子どもたちに集中して聴かせる静かな雰囲気を作ってからが良いと思う。 時間配分が悪かった。15分余っていた。</p> <p>【⑨ 児童への声かけ・支援の工夫】 歌った後の賞賛、「元よく歌えたね〜」などの声かけがあると良い。 海に泳ぎに行ったという意見に反応はしてくれただけで、前に書き出してくれなかったのも、児童だったら間違っているのかな？と不安に思うと思った。 歌詞のことは、発問が難しいと感じた。 先生の願望「〜してほしい」というだけでのやり直</p>	<p>【⑥ 授業の進め方の工夫】 動画のバックで取り上げる教材を流しておくとも自然な流れで授業に移りやすいと感じた。 少し進め方のテンポが悪いかなと感じた。 途中板書が下に書いていて後ろから見にくかった。 歌った後に座るまでの時間が長く感じ、座らせるタイミングが悪かった。 発問が少し難しい。 ピアノの練習不足。もっと頑張ってください。 めあてを表示するタイミングが遅いと感じた。 なかなかめあての意図が児童の側に伝わってこなかった。 歌う活動だけでは面白くなかった。初めて「ふるさと」を聴いた児童がいる中、たった1,2回聴いただけで全曲歌うのは難しいと思った。繰り返し練習するして主旋律を覚えさせる流れが必要である。 授業の展開が上手くいかずに、時間が余ってしまった。 曲をCDで流した時に、全曲をきちんと聴かせて曲全体を意識できるようにしたほうが良かったと思う。音楽をとめるタイミングが悪かった。 音楽機材の使い方の把握ができていなかった。トラブルへの対応など考えておくべき。</p> <p>【⑦ 児童への指示・声かけの工夫】 指示された内容が分かりづらくてグループワークがうまくいかなかった。 「曲の歌詞の意味が何となく分かったかな」と聞いた時にわからないと感じているであろう児童への声かけもあると良いのではないかと。 P(ピアノ・弱い)のような強弱記号での「ふるさと」の表現の仕方が伝わりにくく分かりづらかった。 児童からの「ゆっくり歌う」という意見に対して、実際にはCDをかけたのでテンポを変えた表現の工夫に取り組みば良かった。ピアノ伴奏などで取り組めると良かった。 教師の話す言葉が少し児童には難しいと感じる。質問などももっと分かりやすい問いかけがあったのではないかと。</p>

	<p>しは児童に考えさせていないと感じた。 先生の声のトーン急に大きくなって怒られているのかと思う場面があった。 黙想させて静けさを作るのは、1年生では難しいかと思われる。 もう少し丁寧な説明があったほうがよい。 「でかい」よりは歌詞を利用して「おおきい」という言葉でまとめるほうが良い。 めあての「おもいうかべて」は1年生には難しすぎる言葉ではないかと思った。「考えてみよう」でいいのではないか。 「思い浮かべて」の意味を最初に言えば児童はよりイメージしやすいと思った。 児童に授業の感想を聞いたのはなぜか。児童の答えに対して「うかべられなかった？」というマイナスな受け答えがあった。肯定的な受け止め方の発言が良いのではないか。</p>	
<p>教材 マイ ナス 面</p>	<p>【⑩教材の工夫の仕方】 海の絵を出す前に、一度、海のイメージを質問してみても絵を提示したほうが良いのではないかと感じた。 歌詞が書かれている画用紙の1番と2番の隙間があまりなかったので分かりにくかった。 歌う時の持たせ方など、教科書の使い方の工夫が必要であると思った。 黒板やホワイトボードの書き方に工夫が必要であると思った。計画的な板書を考える。 CDとピアノ伴奏の使い分けができるとよいと感じた。 ラジカセの音量が小さくて聴きづらかった。音量など機器の確認が必要である。 楽器の音色への工夫が必要。イメージを広げるための音を提供するための楽器の音量などを確認する。 楽器(レインスティック)の活用を工夫する。イメージを広げるための楽器の音色を児童に十分に聴かせるのに必要な時間を検討することも必要だと思う。 理解の難しい児童への配慮ができていなかった。 絵カードを貼らせる意図が分かりにくかった。初めから歌詞表にイラストを描いたり貼ったりしていてもよいのではないかと感じた。教科書の絵を活用しても良いのではないか。 イラストがもう少し大きいほうが見やすい。少し小さいと感じた。 絵カードの波が分かりにくかった。 「海」や「波」の分かる児童と分からない児童には、かなり理解に差があると感じた。動画を使うなど、教材の工夫が必要ではなかったか。 歌詞の波は「青い波」とあるので、白い色の波ではなく、青い波にしたほうがよかった。</p>	<p>【⑧教材の工夫の仕方】 準備された模造紙にかかれた文字の色の工夫があると良い。視覚的に分かりやすいこと、めあてなど大事な内容をはっきりと示しておく必要がある。 記号を模造紙に書き入れていく際に、色分けや濃さを工夫すると視覚的に捉えやすいと思った。 板書されている文字が小さく、文字の大きさも検討が必要である。 最初のビデオ、スライドショーの必要性がわからなかった。「ふるさと」というテーマに絞ったほうが良いと思った。ふるさとのイメージから離れていた。 歌詞表の記号もカードの準備があると良いと感じた。そのほうが、記号がはっきりする。 映像等は、事前に機材での確認をしておく。使えなかった場合の代替案を考えておくべきである。 ラジカセの音だけでは同じで面白くない。 板書や歌詞表、めあてのカードなど縦書きと横書きが混在していた。そろえたほうが板書が見やすい。意図的であるなら、その意図が伝わるようにしたほうが良い。 板書がいろんなところに書かれていたので、進行順に右から左のように書いたほうが分かりやすかったと思った。 記号を縦書きにしていたが、正しい横書きで書いたほうが良い。 ピアノ、伴奏の大切さを感じた。</p>

また、授業反省後のレポートでは、以下のような課題等を各自まとめている。

<p style="text-align: center;">「うみ」の模擬授業 講義後のレポートから</p> <ul style="list-style-type: none"> ・よい点や悪い点がたくさん出てきたので、これから改善してよい方向へもつていけるようにすれば良いと思う。 ・初めて授業したとは思えなかった。素晴らしかった。 ・色々と参考になる部分が多かった。 ・先生がする質問に対し答えられるか、不安が出てきたが、それにも答えられるよう1つ1つの活動に意味を込めて行っていきたい。 ・自分が授業すると思うと悩むことが多いと思う。自分でも授業展開を考えていきたい。

音楽科教育法における模擬授業の在り方 協働的授業づくりを通して

- ・導入では「何の音に聴こえた？」と質問してレインスティックを使ったり、教科書だけではなく黒板に海の絵を貼ったりして工夫がたくさんしてあった。
- ・今日のためてがちゃんと達成できたのか、達成度評価をどうするかなど考えていくのは難しく感じた、子どもが主体的に参加できるような活動を1時間のうちに何個か入れると学びが深まると思った。
- ・自分が今回のためて通りに授業をするのであれば、自分がうみになったり、船になったりと変身ごっこで遊んでイメージさせたいと考えた。
- ・グループの代表の先生は、時間をかけてこの授業をつくったと思う。今回は1つ1つの授業の準備が大変だということが分かり参考になった。
- ・みんなの評価を見て改善点を知れるので良い経験になると思う。
- ・模擬授業を見て、いくつか気をつけなければならないところもあったので、今日の授業を参考に自分が授業する時は気をつけて授業できるようにしたいです。
- ・1年生グループと6年生グループの模擬授業がどのように違うかしっかり比較して授業を受けたいと思います。
- ・1つ1つの学習活動の工夫が細かくされており、準備をしてきたんだなあということが伝わった。
- ・授業を作りあげるのには大変だと思った。
- ・課題があったが、しっかりと話し合っ授業計画をみんなで取り組むことができた。
- ・人の授業を見ると、良い点も改善点も見つけられてとても勉強になった。
- ・教師の1つ1つの振るまいや活動、言動、行動が生徒、児童に大きく影響していることがわかった。
- ・今日の模擬授業では昨日の練習では気づけなかった改善点に気づくことができた。教材ももう少し改善する点があった。
- ・先生の言い方にも気をつけて子どもが困らないような戸惑わないような言葉が必要だなあと思った。
- ・模擬授業を受けて学ぶことが多くありました。
- ・授業を作るのは難しいと思った。これからは、習ったことを活かして良い授業を作りたい。反省を活かした授業づくりに取組たい。
- ・自分だったら、このようにすることができた、できなかったと考えながら受けた。
- ・模擬授業をしてくれた方はすばらしい点が多くあったので学ぶことが多くありました。他の人の意見も聞くことで自分では気づけなかったことに気づくことができた。
- ・みんなの意見をまとめると、良い点と悪い点がある程度明確にすることができた。
- ・導入、展開、終結の3つの流れがしっかりしていないと授業のメリハリがはっきりしないので気をつけたい。実際に授業を聞いて、これからの授業づくりの参考になった。目標と指導内容をつなげて目標の達成にたどり着くためにはどう授業を工夫していくのか考えていきたい。グループでの話し合いを次の授業につなげていきたい。
- ・児童の立場で、そしてこの授業を自分がしたら、という2つの観点で見たが、45分の中で、様々な活動と意図をもって計画、実行することの難しさを実感した。特に評価の方法に関してはまだまだ知識が足りていないので、これから深めて生きたい。
- ・みんなで考えてつくった授業だが、反省点はまだまだたくさんあったので、これからもっと授業について考えなければならぬと感じた。
- ・授業者の一生懸命な姿に感動した。子どもがたちが大きく成長できるような授業をつくっていききたいです。
- ・授業を終えてプラス面、マイナス面がありましたが、マイナス面をプラスに帰れるようにしていくともっとよい授業ができると思いました。自分も模擬授業をする時には、子どもが主体的に関わる活動を取り入れたいと思いました。

「ふるさと」の模擬授業 講義後のレポートから

- ・やはり授業の難しさを痛感した。準備物、発問、流れ、1つの授業を行うのにこんなに力と時間が必要だと分かった。
- ・音楽の機材の使い方など学ぶことが多く、自分自身の課題を感じた。
- ・グループ全員で多くを考え、意見を出し合えた。
- ・模擬授業を行う前の準備はみんなで放課後に集まっているいろいろな案を出し合っ作り上げた。今日の授業では電子機器のトラブルもありましたが、展開の流れがきちんとできていてよかったと思った。代表者が授業を行っているのを見て、案を出して作り上げていく側としても課題が見つかったので、今後の他教科の指導案作成にも生かしていきたいと思いました。
- ・1つの授業を完璧に作り上げるのは難しいが、練習して指導を受けた分だけ成長につながっていくと思いました。
- ・授業をしたわけではないけれど、見ているだけでもとても緊張した。発問においては難しいのはわかっていたが、もう少し検討すればよかったと思った。こんなに授業づくりが難しいとは思っていなかったけど、それがよかったのでよかった。
- ・学年が違うと内容や授業の展開もずいぶん違う。各学年にあった授業内容を展開することが大切である。
- ・音楽は自分を表現する科目なので教師が堂々と授業するようにしたい。

- ・授業の改善点に気づく大切さが分かった。
 - ・授業中でのトラブルに臨機応変に対応するのは難しいと感じた。
 - ・45分の授業を作ることは初めてで問題ばかりだった、たくさんの知識をつけ、もっと良い授業が作れるようにしたい。
 - ・動画を作成して見せるというアイデアはすばらしかった。また、先生自身が発表者にしっかり向き合う点も配慮されていて先生のあるべき姿を見た。発問内容もみんなが、考えを深めることができるようなものを作っていく事が必要だと感じた。教材を学ぶ意味も考えていこうと思う。
 - ・他教科でもこの学びを生かしたい。
 - ・グループによって課題は違ったが、良い点、課題を生かしてこれからにつなげたい。
- 。模擬授業はとても難しかったので、まずは、自分の知識を深めて、授業につなげていきたいと思う。
- ・授業にける学習活動にはエビデンスが必要である事が理解できた。
 - ・授業者は緊張していたが、練習での課題を改善して堂々と授業していた。見ている自分もとても勉強になった。
 - ・共通教材を学ぶ意味を理解すること、児童の実態を考えた教材づくりなど具体的な内容をしっかりと考えた授業を作っていきたい。
 - ・模擬授業を通して授業の難しさを感じた。授業のスピードや声かけ、教材などを工夫することが大切だと思った。
 - ・授業のグループとして授業内容は理解していたが、いざ授業を見ると構成通りに授業するのはとても大変だと思った。
 - ・みんなで意見を出し合いながら作り上げることでできた授業だった。

4 考察

学生の模擬授業のまとめを考察のひとつの視点として、筆者が本学の研究紀要(「教育科学論集」2017. 第4号)に先行研究「学校における音楽の授業づくり～教師の自己フィードバック Teaching Essence (授業組立の要素) の視点から」として提言した授業の組立の要素の6つの観点で評価項目を具体化して学生の振り返りの内容をフィードバックしてみると以下のように考察された。

① Inspiration : 気づき・直観力	<p>子どもの実態に気づき発達を理解してから授業設計ができていたか。</p> <p>学習グループの実態にふれ、その特徴に気づくことができたか。</p> <p>楽曲のもつ特徴に気づけたか。</p> <p>指導すべき音楽的な内容に気づくことができたか。その内容を理解できているか。指導できるのか。</p> <p>授業をする自分の姿に気づけていたか。</p> <p>児童が音や音楽に気づいていたか。</p> <p>どのような音楽を提供するのかを気づけたか。</p>
② Feeling : 感じる・感覚	<p>楽曲の旋律のもつ美しさや歌詞の響きを感じる事ができていたか。</p> <p>児童と教師の間にある音や音楽を感じる事ができたか。</p> <p>児童が音や音楽をどのように感じているかを感じる事ができたか。</p> <p>児童とともに教材曲を共感していることを感じる事ができたか。</p> <p>授業する場の雰囲気を感じる事ができたか。</p>
③ Imagination : 想像性	<p>児童がどのように音楽を理解しているかを想像できたか。</p> <p>児童の学習活動の様子を想像できたか。</p> <p>音楽が作り出す音の世界を想像する事ができたか。</p> <p>歌詞が生み出す音楽の世界観を想像する事ができたか。</p> <p>児童の音楽指導をしている自分の姿を想像する事ができたか。</p> <p>授業する教師としての自分の姿が想像できたか。</p>
④ Creation : 創造性	<p>想像された楽曲の音楽を歌や楽器で創造する事ができたか。</p> <p>歌詞と旋律の作り出す音楽を創造できたか。</p> <p>音楽の要素を理解し、音楽的な技能を高め、豊かな音楽を創造する事がで</p>

音楽科教育法における模擬授業の在り方
協働的授業づくりを通して

	きたか。 子どもの表現する音や音楽を大切に創造的な表現を工夫してともに創り出すことができたか。 授業を創造することができたか。
⑤ Storyteller : 語り手	授業を企画することができたか。 指導者として授業を構成することができたか。 子どもたちの個性を生かした表現から授業を広げていくことができたか。 音や音楽を通して子どもたちとつながって授業を作り上げることができたか。 授業での教師のこぼしのシナリオを作ることができたか。
⑥ Interaction : 相互作用	子ども同士の音や音楽のつながりで学習活動が展開されたか。 子どもと巨視の関係性を築くことができていたか。 個の表現を学級全体の表現として発展させることができたか。

授業の組立の要素の6つの観点で評価項目を具体化してみると、その評価項目と学生の課題意識を比較する視点とすることができる。

Inspiration (気づき・直観力) の観点では、授業において児童に考えさせる工夫や歌詞理解の工夫、教師の態度面 (声の大きさや話し方など)、子どもの考えを引き出す工夫において授業者の工夫に気づくことができているが、楽曲の細かな分析が十分でないために、指導の流れや設問などに課題が挙げられている。

Feeling (感じる・感覚) の観点では、授業者が歌詞や旋律から感じた楽曲の特徴を指導の中にどのように活かして展開していくか検討を重ねて授業に取り組んだが、音楽そのものの特性や楽曲の分析の方法や音の提供の仕方など、音楽の基本的な事項の理解不足と指導につなげていく教材理解の難しさを課題としている。情報機器の活用の仕方や教具など教材研究についても同様な課題が挙げられる。**Inspiration** (気づき・直観力)、**Feeling** (感じる・感覚) は、授業づくりを始める基本としての要素であり、授業力を決定する要素であると考え。気づかず、感じられていない授業づくりは形骸的な授業となりやすい。

Imagination (想像性)、**Creation** (創造性) の視点では、児童の反応や内面的な理解、教室に響く音の空間をどのように教師が想像することができるのか、また、児童の想像性を活かしてどのように創造的な活動として授業の展開ができるか、など授業を創り上げるための授業技能の習得の大切さも感じることができている。児童の音楽的な発達を授業の活動の中でどのように把握し、児童の成長に合わせて発達を想像し、創造的な授業の構築ができるかが課題となる。**Imagination** (想像性)、**Creation** (創造性) は、発展的な授業づくりへの視点となる。

Storyteller (語り手) の視点としての授業者の役割は、教材と児童をつなぎ、授業を構成していくものである。教室を舞台とした授業のシナリオを作れることも授業プロデュース力として重要となる。自己評価においても他者評価においても授業展開の課題を明確にすることができる視点である。指導技術においても、声の大きさ・明瞭さ、音や音楽の表現力、楽器演奏の技能など授業力の基礎・基本の重要性を確認する視点であり、指導者の資質・能力・適性を問われるものである。

Interaction (相互作用) の視点では、模擬授業を作り上げる過程についての課題やそこにおける自分自身の関わり方、グループとしての取組など、代表の授業者の振り返りを通して自分自身の模擬授

業づくりの意識を高めていくことができていることも伺える。また、音・音楽を媒体として児童とつながりあう双方向的な授業づくりの発展的な課題を見いだそうとする様子も見られ、一方的な教師の投げかけでなく、児童の発言をつないで授業することの大切さを感じられている。他者の授業を見て批評することと自分で授業を実践することでは大きな違いがあることも相互的な模擬授業参観関係性から気づくことができている。

授業の組立の要素の視点から模擬授業について評価し考察することにより、授業づくりの個の課題を見いだすことができ、授業力向上のポイントや具体的なヒントを見いだすことができた。この点においては、「教師の自己フィードバック Teaching Essence (授業組立の要素) の視点」として更に模擬授業を含めた授業実践事例を通して検証を重ね、学生の授業力向上の手がかりとしていきたいと考える。

5 まとめ

教員養成課程において授業力育成のためのシラバスの指導内容として模擬授業の果たす役割は大きいと考える。学生は体験的な授業づくりを通して、現状と課題をふまえ、大学で基本的・基礎的な学びの重要性に気づき、アクティブ・ラーニングの視点での「主体的・対話的で深い学び」を深めることができる。授業力の向上につながる基礎となる力を育て、資質・能力の高い指導者育成に役立つものである。

「小学校音楽科において新人教師はどのような困難に遭遇しているか」の調査を高見仁志氏は、小学校音楽科教育法（ふくろう出版）の著書の中で次のようにまとめている。

- (1) 教材選択に関する困難・教育目標に迫るには、どのような曲を選定するとよいのか分からないなど、主に曲の選定に関する困難
- (2) 子どもの状況が予想と違う・読めないという困難：子どもの状況を予想・把握できない。想定外の子どもの状況に困惑するなどの困難
- (3) 音楽の指導法を知らないことに起因する困難：リコーダーのタンギングの指導法、裏拍のとらせ方など、音楽の指導法に関する知見・技術の不足に起因する困難
- (4) 授業の進め方に関する困難：授業の最初に既習曲を歌って導入するのか否か、鍵盤ハーモニカの個別指導と全体指導の時間的バランスをどうするかなど、授業の進め方のバリエーションの確立に関する困難
- (5) 自己の音楽的能力に関する困難：うまくピアノ伴奏でないなどの自己の音楽的能力に関する困難
- (6) 自己の授業のあり方に迷うといった困難：自己の授業は何に主眼をおいてどのようにありたいのかといった迷い、授業のクオリティーに対する反省など、自己の音楽科授業に対するとまどいに起因する困難
- (7) 障害児への指導に関する困難：立ち歩く、勝手に楽器を鳴らすなど障害児への対応が分からないといった困難
- (8) 評価に関する困難：評価規準・基準などが曖昧で、どのように評価してよいのか分からないといった困難

ここに示された新任教師の困難さは、本学の学生が模擬授業の振り返りやまとめで示した内容に類

音楽科教育法における模擬授業の在り方 協働的授業づくりを通して

似している。つまり、新人教師の困難さは、教員養成課程における指導の課題として解決に導かなければならないものである。

個人において気づくことのできない自己の指導の在り方を協働的な模擬授業づくりを通して省察することで、個と集団の授業力の向上を図っていくものであると考える。

教員養成課程を抱える本学において教師としての資質を高める授業力育成は大きな使命であるが、学生の授業評価やレポートに見られる課題意識から、模擬授業がその育成に有用であると考えられる。学生は、授業の構想から授業計画、教材研究等で仲間と協働的な取組をする中で、授業の困難さに直面しながら、様々な体験を通して学び合いながら、そこでの気づきを他教科の模擬授業にも生かしていこうとする意欲が見られる。模擬授業を体験することで、更に教科研究や教科指導に関する基礎的・基本的な理解や指導方法、技術の向上の大切さにも気づいている。学生はそれらの経験の中で自分の目指す授業を模索し、その教師としての姿や授業観を明確にしていくことにつながり、大学での学びの意欲を向上していくものと考えられる。

本稿においては、音楽科教育法で実践した協働的な模擬授業の1つの取組をまとめたが、授業を構想するのに必要な学習指導案の作成や指導の評価規準などについては、今後の講義において理解を深めさせなければならない内容である。また、系統的な指導を行うためには、他の科目担当教員間の教科指導法の指導のあり方の連携が必要であり、学内においての提案等を含め今後検討していきたいと考える。

参考資料・文献

- 1 文部科学省：中央教育審議会：「教職生活の全体を通じた教員の資質能力の総合的な向上方策について（答申）」平成24年8月28日
- 2 文部科学省：小学校学習指導要領（平成29年7月）
- 3 文部科学省：調査研究協力者会議等（初頭中等教育）「教育課程コアカリキュラムのあり方に関する検討会（平成29年11月17日）」「教育課程コアカリキュラム」
- 4 文部科学省：小学校学習指導要領（平成29年告示）解説音楽編（平成29年7月）
- 5 ぎょうせい：平成29年度改訂小学校教育課程実践講座 音楽 編著；宮下俊哉
- 6 音楽友の社：小学校教員養成課程用最新初等科音楽教育法 初等科音楽教育研究会編
- 7 教育出版：小学音楽おんがくのおくりもの 教師用指導書研究編
- 8 ふくろう出版：第3版小学校音楽科教育法 学力の構築を目指して 吉富功修・三村真弓編著
- 9 ミネルヴァ書房：新しい小学校音楽科の授業をつくる 高見仁志編著
- 10 宮崎国際大学教育学部紀要「教育科学論集」2017. 第4号「学校における音楽の授業づくり～教師の自己フィードバック Teaching Essence（授業組立の要素）の視点から」 日高まり子